



平成29年から「畑でリハビリを！」という思いから、施設外就労として、こまつなの収穫作業の請負契約を締結。通年の葉物野菜の出荷作業と、一時的な繁忙期に、田んぼの育苗箱並べ、枝豆の選別・袋詰め、たまねぎ苗の出荷作業を請け負ってもらう。平成30年から石川県の「農福連携促進アドバイザー」（石川県障害保健福祉課）を務め、県内でのマッチングの促進に貢献している。また、小中学生の職業体験を受け入れたり、総合学習や保育園で食育活動を行い、地域農業の魅力を伝え、食への関心を高める活動を行うなど、幅広い活動を行っている。

基本情報

- 所在地：石川県内灘町
- 団体名：株式会社 笠間農園
- 選定表彰：
 - ・平成23年 中日農業賞「優秀賞」
 - ・令和元年 日本リハビリテーション学会 農福連携研究発表
 - ・令和2年 ディスカバー農山漁村の宝2020全国選定
 - ・令和4年 河北潟生産組合連合会優良生産者表彰石川県知事賞
 - ・令和5年 「ノウフク・アワード2022」優秀賞 第31回石川県作業療法学会 農福連携研究発表
- 主力商品：こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも

取組の概要

- こまつな、ほうれんそう、えだまめ、にんじん、さといも等をハウス58棟(1.7h)と露地(5ha)で栽培。
- 地域の小学校から農業見学を受け入れたり、保育園への食育活動、収穫体験を実施。
- 通年でのこまつなやほうれんそうの収穫・袋詰めと、一時的な繁忙期にはそれぞれの施設の利用者の特徴を活かし、施設外就労を受け入れる。
- 作業療法士として病院に勤務していた経験を活かし、大学と共同で「農業が障害者の健康に及ぼす効果について」の医学的なエビデンスを追っている。
- 県のマッチングに立ち会い、農家と福祉をつなぐ農福連携促進アドバイザーを務める。

通年での小松菜収穫



枝豆の選別・袋詰め



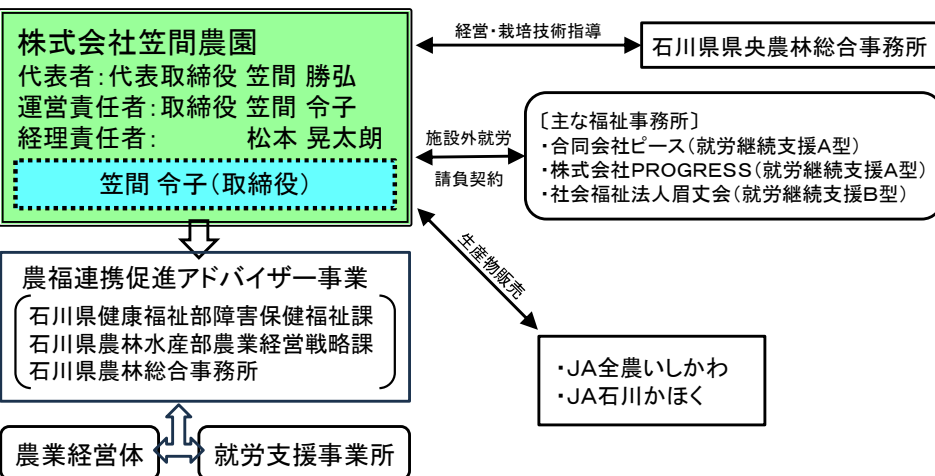
野菜たっぷり『農福おやつ』



さといも作業



体制図



取組の成果

- 施設外就労として、こまつなやほうれんそうの収穫・袋詰め作業を通年で4施設、えだまめの出荷作業では、夏2ヶ月間で6施設が携わる。
- えだまめは年々出荷量が増加するとともに、請け負ってもらう仕事量が増し、工賃単価を上げることに成功。さらに、収穫した農作物を商品化し、6次産業化にも取り組む福祉事業所が出現。
- アドバイザーを務める県事業では、令和5年度までに130件のマッチングに繋がっている。

所在地▶石川県河北郡内灘町湖西85

連絡先▶TEL:ー E-mail:komatsunanako@kasamanouen.jp

ウェブサイト▶<https://www.kasamanouen.jp>

【取組のプロセス】

農家の高齢化と担い手不足、荒廃農地の増加は続く

平成29年

きっかけ

○元作業療法士である取締役の病院勤務の経験から、自園にて高齢者が元気で健康に農作業される姿を見て、農作業にはリハビリ効果があると確信。

「畑でリハビリを！」

- 近隣の就労支援施設から、「障害者に農作業をさせて欲しい」と依頼され、受入を開始。
- 農園内のたくさんの仕事の中から、「こまつなの収穫」をお願いし、効率向上を目指す。



ほうれん草の収穫作業

平成30年

ディスカバー農山漁村の宝 全国選定

半年で「障害者も農業で活躍できる！」と確信

- 障害者が携わる作業を増やすことで、依頼する福祉事業所も増え始めた。
- こまつなの収穫・袋づめ（通年作業）に、4福祉事業所、えだまめの収穫と出荷（夏の繁忙期）には、6福祉事業所となった。また、たまねぎの苗の出荷作業にも多くの障害者が活躍している。



稲の苗箱並べ作業

令和2年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

令和3年

石川県内にも農福連携を広げる

- 平成30年 石川県農福連携促進アドバイザー となり、マッチングの助言を行っている。
- 令和5年度までの マッチング件数 は130件で年々増えており、加賀から能登まで県内中に広がりを見せている。



石川県マッチングの様子

令和5年

「ノウフク・アワード2022」優秀賞

今後の展望

農福連携の魅力を最大限に活かし、伝え広げ実行していく。

- 農園において障害者・高齢者を含む多様な方々が活躍できる可能性を拡大していく。
- 労働力としての農福連携から一歩前進し、**心身機能向上などの農業の魅力を追求**していく。
- 平成6年1月の能登半島地震による被害は軽微で、今後も引き続き活動を継続していく。



障害者と農園スタッフ